

投資事業評価調書（継続：再々評価）

部課室名	河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 佐々木良作 (都市河川係長 糟谷昌俊)	内線	4408 (4417)
------	-------	---------------------	-------------------------------	----	----------------

事業種目	河川	事業採択年度	S44		現計画	再評価時点
事業名	高潮対策事業 (二)千種川水系加里屋川	着工年度	S44	総事業費	55億円	69億円
		再評価年度	H10	内用地補償費	8億円	8億円
事業区間	赤穂市千鳥町～加里屋			完成予定年度	H25	-
所在地	赤穂市			進捗率 (内用補進捗率)	74%(57%)	73%(57%)

事業の目的		事業内容				
播磨灘沿岸部では、昭和39年9月台風20号、昭和40年9月台風23号で高潮による浸水被害に見舞われ、当該河川においては昭和51年9月台風(浸水面積1,840ha、浸水家屋11,476戸)等、過去から大規模な浸水被害に見舞われている。このため、当該地域の浸水被害を防止するため、高潮被害を防御するとともに、治水安全度1/60を目標として改修を行い、地域住民の安全・安心な生活環境を確保する。		計画流量	Q = 64m ³ /s (治水安全度1/60：河口地点)			
		実施内容	L = 4,953m W = 10.9m ~ 8.9m 掘削、護岸、水門、橋梁15橋、排水機場1式等			

進捗状況	昭和44年度に着手し、これまでに排水機場、水門を完成させ高潮に対する安全性は大幅に向上している。河道改修については河口部から松栄橋までを完了したが、H5.10から地元の反対により工事を休止している。 再評価時点(H10)から現在までの経過は以下の通り。 ・H12.2 計画説明会開催、地元14自治会より促進要望書提出 ・H12.3 ふるさとの川整備連絡協議会開催 ・H13.3 一般住民説明会開催 ・H14.1 早期改修を求める署名(5,288名) ・H14.8 河川整備計画検討委員会設置 等、鋭意地元調整し、工事再開の目途がたってきたところである。 工事再開後も地元住民と話し合いを継続し、残事業の重点化と効率的な事業執行に努め、平成23年度に事業を完了させる予定である。 また、河川整備計画を現在策定中である。
------	---

評価視点	評価結果の説明
(1)必要性	・赤穂市街地を浸水被害から守るため排水機場、水門、掘削、護岸等の河川改修工事を実施しており、残区間の治水安全度を早期に向上させるため、継続的な整備を実施する必要がある。
(2)有効性・効率性	・B / C = 3 . 1 ・河川整備計画策定のための流域懇談会を開催しており、事業に対する地域住民の意識が高い。 ・工事再開後も、地元住民との話し合いを継続しながら、事業を推進する。
(3)環境適合性	・平成3年度には事業区間の一部について、「ふるさとの川モデル事業」の認定を受け、沿川の街づくりと一体となった整備を行う。 ・地元住民から自然環境を重視した多自然型河川整備を求められ、自然石を使用した護岸や河床掘削の見直しを行っている。
(4)優先性	・残事業区間は河積が狭小で横断構造物も多数存置し、治水安全度が低く、赤穂市街地を浸水被害から防御する当該事業の優先性は高い。

再々評価の結果	事業継続	左の理由	上記理由により、事業継続が妥当である。
---------	------	------	---------------------